

ABOUT 茨木市

【基礎データ】

人口 287,730人 (R2 国勢調査)
人口増減率 2.9%増 (府内3番目 R2/H27 国勢調査)
高齢化率 24.5% (府内3番目に低い R2 国勢調査)



【茨木市の歴史】

茨木市は日本でも有数の古墳群地帯で、古墳時代の初期から末期までの各時代の古墳が現存しています。

平安時代に、市の中央部を東西に走る西国街道の往来がさかんとなり、江戸時代には参勤交代などに利用され、大名などが宿泊した「椿の本陣」は全国でも珍しい日本交通史上の遺跡です。

明治に入り、明治4年(1871年)11月廃藩置県により大阪府の管轄となり、明治31年(1898年)10月茨木村が町制を施行しました。

昭和23年(1948年)に市制を施行し、その後の合併・編入を経て、現在の茨木市となりました。



太田茶臼山古墳（継体天皇陵）



椿の本陣（郡山宿本陣）

■合併・編入の歴史

昭和23年(1948年)1月	1町3村※が合併し、市制を施行	※茨木町・三島村・春日村・玉櫛村
昭和29年(1954年)2月	2村※を合併	※安威村・玉島村
昭和30年(1955年)4月	4村※を合併	※福井村・石河村・清溪村・見山村
昭和31年(1956年)12月	箕面市の一部※を編入	※豊川村東部
昭和32年(1957年)3月	1村※を合併	※三宅村

産業・住宅都市としての要素をあわせもつ都市となり、北大阪の交通・産業の要衝として重要な位置を占め、めざましい発展を遂げることとなりました。

人口も、昭和23年の市制施行時には、わずか3万4千人からスタートしましたが、現在では、**28万人**を超えるまちに大きく成長しています。

これも、先人から受け継いだ歴史と文化を守りながら、市民の方々と一緒に様々なまちづくり事業を展開してきた努力が、実を結んだ結果といえるでしょう。

茨木市の魅力

身近に自然が広がるまち



元茨木川緑地

■まちなかのグリーンベルト『元茨木川緑地』

「大阪府緑の百選」にも選ばれ、都会では珍しく、市の中心部に位置する全長約5キロメートルの緑地帯。

遊歩道では散歩やジョギングなどが楽しめ、季節の移り変わりを感じることができます。毎年春には「市民さくらまつり」が開催されるなど、まちなかでもほっとできる安らぎの空間です。

暮らしを楽しむまち

■食べて飲んで楽しめる「市民主体のイベント」

茨木市では、企画から運営まで市民の皆さんが直接携わるイベントが数多く行われています。

まち全体に音楽が鳴り響く「茨木音楽祭」、夏の風物詩である「茨木フェスティバル」や花火大会、ビールと音楽の祭典「茨木麦音フェスト」など、食べて飲んで楽しめる魅力あるイベントが季節を問わず開催され、賑わいを見せています。



茨木辯天花火大会



茨木麦音フェスト

教育・子育て環境が充実したまち



こども支援センター

■まち全体で子育てを応援

おにクル2階の「こども支援センター」では、「ネウボラ+」というコンセプトのもと、妊娠・出産・子育てに関する情報提供をはじめ、各種健康診査・相談窓口などをワンストップで提供し、おにクル内の各機能とも連携しながら、切れ目のないサポートを行っています。

歴史・文化が息づくまち

■世界に誇る「川端康成」や「キリシタン遺物」

茨木市は日本人として初めてノーベル文学賞を受賞し、本市唯一の名誉市民でもある川端康成が暮らしたまちとしても有名です。

また、千提寺地区、下音羽地区は、全国的にも珍しい「隠れキリシタンの里」で、教科書にも掲載されている「聖フランシスコ・ザビエル像」や「マリア十五玄義図」など、世界的に貴重なキリシタン遺物が発見された場所です。



川端康成

交通環境が充実した便利なまち

■抜群のアクセス網で、通勤・通学・買い物が便利

JR、阪急の2路線があり、約14分で大阪、約22分で京都に行くことができます。

また、市内にインターチェンジもあり、車でのアクセスも優れているほか、関西国際空港と茨木を結ぶ高速バスが市内2駅から発着していることも周辺市には無い利便性であり、広域の移動にとっても便利です。



JR 茨木駅

この他にも、茨木市ホームページ内の『茨木三昧！』では、「遊ぼう！茨木」、「住むなら茨木！」、各種イベント情報などを随時更新し、市の魅力を広めています。

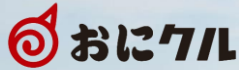
茨木市ホームページ → 『茨木三昧！』
(<https://www.city.ibaraki.osaka.jp/ibarakizanmai/index.html>)

主要プロジェクト

■文化・子育て複合施設 おにクルの整備

平成27年12月の市民会館閉館以降、市民とともに「市民会館100人会議」をはじめとする数多くの取組を実施し、基本構想で定めたキーコンセプト『育てる広場』の実現に向けて、ハード・ソフトの両面から整備を進めてきた文化・子育て複合施設おにクルが令和5年11月に開館しました。

茨木市文化・子育て複合施設



(↑7階 プラネタリウム)



(↑5階・6階 図書館)



(↑4階・5階 大ホール)



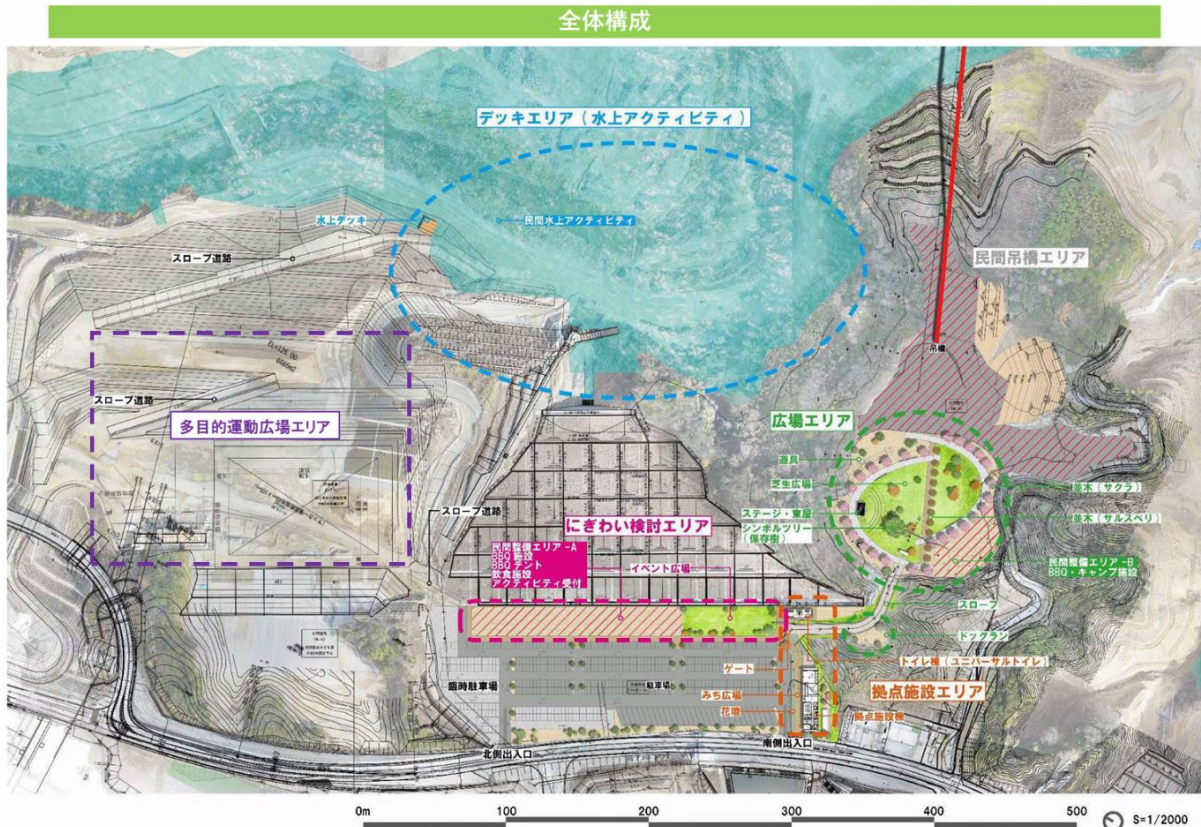
(↑1階 屋内こども広場)

■安威川ダム周辺整備～ダムパークいばきた～

安威川ダムの周辺地域について、北部地域の「ハブ拠点」として、多様な形で地域と関わりを持つ「共創」人口を創出し、ひいては、北部地域全体の活性化につながる場となるよう、整備を進めていきます。

ダム湖の水辺環境や周辺の緑環境を生かし、アクティビティや学びの場、マルシェやレストランなどのにぎわいの場、市民活動の場など、市民の暮らしの満足度を高め、新たな交流人口や関係人口の拡大につながる公園や拠点施設の整備・仕組みをイメージしています。

※計画は現段階のもので今後変更の可能性があります。



【民間吊橋エリア】令和7年3月オープン



【デッキエリア】令和8年以降、利活用予定



波が少ないダム湖の湖面を活かした、サップやカヌーなどの水上アクティビティが楽しめるデッキエリア。

※画像はイメージです。

令和6年4月23日オープン

